

## 地域創生戦略関係事業実施状況1（地方創生推進交付金対象事業）

## 今だけ、ここだけ、貴方だけ観光推進事業

## 事業目的

精華町の地元産品・観光のブランド力強化に向け、「いちごのまち」「スイーツタウン」を推進する為、「お茶の京都」事業との連携を図るとともに、体験型観光農園の継続支援や、特産化を目指すべく栽培実証実験を進めている「夏秋いちご」のプロモーション支援など、観光農業の推進に取り組む。

## 事業結果概要

○ 農業や地域産品を活かした産業振興・観光振興施策の実践

いちごを軸とする産業振興・観光振興を図るため、京都初の栽培実証実験に取り組んでいる「夏秋いちご」について、スイーツ店を招待しての試食会や「夏のいちごスイーツフェア」「夏いちごでティータイム」などのイベントをプロモーション策として実施したほか、夏秋いちごのネーミング投票も実施した。

また、「お茶の京都」関連イベントとして開催された「宇治茶まつり」や本町主催のイベント「せいか祭り」においても、「京都精華Cafe」としてブース出展し、特産品販売に合わせて町のPR活動を行った。

観光農園における更なる魅力増進や付加価値の向上に向けて、生産者、スイーツ店、研究者、近隣住民、学生など、多様な視点からの意見交換（パネルディスカッションやグループワーク）を行うと共に、昨年度に引き続き観光農園への補助を行ったほか、お茶の京都DMOと共に京都府南部の広域観光振興を図った。

## 事業成果

「いちごのまち」を推進する為に、冬～春における「いちご狩り」の季節に加えて、夏～秋において収穫が可能となる「夏秋いちご」について実証実験を行い、その販路の可能性などについて、多角的な検討結果に基づき、実証実験に取り組まれる観光農園の支援ができた。

併せて、各観光農園の活動支援を行うことで観光・地元産品のブランド力強化を図ることができた。

「お茶の京都」関連イベントとしての「宇治茶まつり」や「せいか祭り」において、新たな特産品である「いちごのフレーパーティー“莓一会”」を活用した、カフェ形式でのブース出展「京都精華Cafe」での特産品の販売を通じて、町のPRを行う事ができた。

お茶の京都DMOにより、けいはんな記念公園における体験メニュー「枯山水体験」の商品化のため、インバウンド版ハイヤープランを検討し、ガイドドライバー等研修を行う事ができた。

## 事業決算額

30,434,836円（交付金充当15,217,418円）

## 主な経費

農業や地域産品および学研都市ブランドを活かしたシティプロモーションによる産業振興・観光振興業務：8,909,500円（企画調整課に執行委任分）・観光農業推進事業補助金：8,400,000円・観光魅力発信業務：4,859,783円・お茶の京都DMO負担金：2,903,000円 など

## 今後の課題・展開等

観光入込客数については増加傾向であり、これまでの成果が確認できるが、観光農園の経営母体の経営ノウハウや就業者の高齢化に起因する今後の運営については、引き続き包括的な支援が必要と見込まれる。今後も「いちご狩り」を中心とした「いちごのまち」「スイーツタウン」を精華町観光農業の基軸に据え、そのブランド力向上や認知度の向上を図り、継続的で安定的な精華町観光農業の展開を図る。



地域創生戦略関係事業実施状況2（地方創生推進交付金対象事業）

## 京都アカデミック産業創造事業

### 事業目的

国の地方創生推進交付金の対象事業として、交流人口を継続して増加させ経済活動に反映するため、引き続きサブカルチャー振興を深化させるとともに、情報発信力の強化、遠方からのリピーターの拡大、「クールジャパン」を意識したインバウンド対策、地域観光資源の掘り起こしを戦略的に進めることで、サブカルチャーによる誘客拡大と地域資源の付加価値向上による地域の消費活動の促進を図る。

### 事業結果概要

大学機関や企業との連携による、「科学のまちの子どもたち」プロジェクトの推進や、サブカルチャーに関するクリエイター支援の取組み、また、地域の魅力発信や交流人口の拡大や京町セイカを活用した「精華町地域創生戦略」に基づくシティプロモーションの推進を図った。

- 大学機関や企業とのコンソーシアムによるSEIKAクリエイターズインキュベーション推進拠点の運営
- 学生や社会人によるワークショップやハッカソンの開催
- 首都圏でのサブカルチャー関係イベント等における町広報キャラクター「京町セイカ」を活用した「学研都市精華町」のPR活動
- 科学体験フェスティバル等の「科学のまちの子どもたち」プロジェクトを通じた魅力発信
- けいはんなオープンイノベーションセンター（KICK）で開催されたモノづくりの祭典「Maker Faire Kyoto 2019」への出展協力。
- 地元金融機関との連携による農業や地域産品の活用、産業振興・観光振興やシティプロモーションにつながる京阪奈新線延伸に向けた「京阪奈新線新祝園ルート整備促進協議会」の設立と決起大会の開催
- 台湾人気フォトグラファーによる町の魅力発信やコスプレヤーの招致による日台交流活動により、インバウンド観光を促進
- けいはんな学研都市活性化促進協議会を通じて、文化・学術両面でのけいはんな学研都市の交流活性化を促進

### 事業成果

- 産官学の連携による「科学のまちの子どもたち」プロジェクト及びサブカルチャー振興を推進できた。
- 広報キャラクターの活用やサブカルチャー振興などを通じて、全国に向けて学研都市精華町のPRや誘客拡大が図れた。
- 鉄道延伸に向けた運動体を形成するとともに、決起大会により広く機運醸成の取り組みを図った。
- けいはんな学研都市活性化促進協議会による各種事業により、けいはんなプラザを核とした文化・学術活動の拡大が図れた。

### 事業決算額

33,003,691円（交付金充当16,498,874円）

### 主な経費

・学研都市ブランドを活用した産業振興・観光振興業務：5,000,000円、広報キャラクターとICTを活用したふるさと納税環境構築事業：4,180,000円、コミックマーケット96出展関連業務一式：2,663,280円、サブカルチャーを活用したインバウンド観光促進事業：3,652,000円、「まっぴるるぐらりまち歩き京都精華町」増刷業務：748,000円、けいはんな学研都市活性化促進協議会分担金：6,500,000円 など

### 今後の課題・展開等

- 「SEIKAクリエイターズインキュベーションセンター」を拠点としたクリエイター育成や「科学のまちの子どもたち」プロジェクトの推進を通して、学研都市精華町のさらなる魅力発信と拠点運営を効果的に推進する必要がある。
- 自立した学研都市精華町の実現のため、京阪奈新線延伸に向けた更なる機運醸成に取り組む必要がある。
- 各種団体との連携・協働を通じて、「けいはんなプラザ」のさらなる知名度向上と学研都市の活性化を促進する必要がある。



地域創生戦略関係事業実施状況3（地方創生推進交付金対象事業）

## インクルーシブソサエティ（共生で賑わう社会）推進事業

### 事業目的

精華町地域創生戦略に基づくシティプロモーションにおける基本目標「健康・スポーツによる地域活性化」の一環として、京都府等との連携のもと、共生社会の実現に向けた環境整備のための取り組みを進める。

### 事業結果概要

精華町地域創生戦略に基づくシティプロモーションにおける基本目標「健康・スポーツによる地域活性化」の一環として、京都府等との連携のもと、共生社会の実現に向けた環境整備のための取り組みを進めた。

○「パラスポーツの普及・啓発」全国的に活躍されているポッチャのパラアスリートとの交流を通じて、障害のある人の社会参加に向けたスポーツ振興を図った。

11月17日 アピタ精華台店西館イベントスペースにおいて、パラアスリートによる競技実演・解説、トークショー、体験会を実施。参加者：約100名

○「福祉と農業の連携活動の普及・啓発」町内の障害関連事業所で唯一、農業関連の事業を実施していた「おーぶんせさみ」へ業務委託し、約795㎡の農地を借り、農産物の栽培や他の福祉施設と連携し、収穫した野菜の販売を行った。

11月17日 せいか祭りに出展し、農福連携普及啓発を行った。

業務従事利用者数12名 農業指導職員2名 収穫状況：13種目

### 事業成果

○「せいか祭り」の連携イベントとして開催したことで、広く地域の方々にパラスポーツの普及・啓発を行うことができた。また、参加者は子どもから年配者、車椅子の方など参加者層が幅広く、イベントも大変好評で意義ある競技体験となった。

○農業を通じて、地域住民や他の福祉施設との交流が広がり、新たな農産物の栽培や販路の開拓など事業拡大に向けて大きく前進した。

### 事業決算額

2,495,530円（交付金充当：1,247,765円）

### 主な経費

- ・精華町障害者スポーツ振興事業委託：1,496,000円
- ・精華町農福連携推進モデル事業委託：999,530円

### 今後の課題・展開等

○パラスポーツを生涯スポーツに発展させるために、広く住民にパラスポーツを知ってもらう環境づくりが必要である。

○地域住民とつながり、地域と共生することで、新たな障害のある人の雇用の場や居場所となるよう取り組む必要がある。また農福連携で生産された作物の販路拡大が必要である。

